

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	3691200020
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会
事業所名	グループホーム希
所在地	徳島県名西郡石井町石井字石井1994 (電話) 088-675-1036

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 5 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤: 12人、非常勤: 3人、常勤換算: 希1 6.93人、希2 5.93人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
または1日当たり		1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	手束病院、松岡歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム希」は広い田園に囲まれ日当たりがよくのどかで、あぜ道は利用者の格好の散歩コースとなっている。敷地内の畑で野菜や花を育て、それを観賞し、季節を肌で感じられるよう配慮されている。玄関にはベンチを設置し、寒い時期でも外気浴ができるよう工夫されている。管理者、職員共に理念を基にケアの質の向上の実践に取り組んでいる。また医療との連携体制が密にあり、利用者の安心した生活に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の課題項目である「評価の意義の理解と活用」については、全職員で話し合って自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果を踏まえて改善を行い、よりいっそうのサービスの質の向上に取り組んでいる。「運営推進会議を活かした取り組み」については2か月ごとに開催し、会議の内容は全職員が周知して共有している。「研修報告の回覧・確認印」は全職員に受講内容を伝達し、確認印がある。「鍵をかけないケアの実践」も改善されている。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>管理者、職員は共に評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。評価で見えてきた課題は具体的な方針を立てて改善し、日々のケアに活かしている。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は2か月に1回開催し、自己評価・外部評価への取り組み状況や事業所の現状、行事の報告、また地域の催し等について意見交換が行われている。メンバーは利用者、家族、民生委員、町職員、併設の養護老人ホーム施設長、管理者、職員で構成されている。会議録は整備して職員に回覧し、共有されている。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>3か月ごとの家族会の時や家族が来訪した際には職員から声をかけ、相談や意見を言ってもらえるよう話しやすい雰囲気をつくっている。出された要望等は記録して全職員で検討し、早期に対応して改善に繋げ、結果を報告するなどして運営に反映させている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>町内の清掃活動や季節ごとの行事、催しに参加し、地域との連携を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心した生活の継続を支援する理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を理解して共有し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動に参加したり、近くの神社への散歩時に会話するなどして地域の方々と交流している。また地元小学生の課外授業の一環としてホームへの来訪もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は共に評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。評価で見えてきた課題は具体的な方針を立てて改善し、日々のケアに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、自己評価・外部評価への取り組み状況や事業所の現状、行事の報告、また地域の催し等について意見交換が行われている。メンバーは利用者、家族、民生委員、町職員、併設の養護老人ホーム施設長、管理者、職員で構成されている。会議録は整備して職員に回覧し、共有されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは事務連絡等の機会を通じて相談を行うなどし、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月に1回「希だより」を発行し、利用者一人ひとりの状況やエピソード、健康状態などを報告している。急を要する場合は電話等でその都度報告している。金銭出納帳には家族の確認印がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月ごとの家族会の時や家族が来訪した際には職員から声をかけ、相談や意見を言ってもらえるよう話しやすい雰囲気をつくっている。出された要望等は記録して全職員で検討し、早期に対応して改善に繋げ、結果を報告するなどして運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、馴染みの関係による支援を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は計画を立て、受講している。また研修報告会を行い、全職員が共有できる仕組みとなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に積極的に参加し、同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に職員が居宅を訪問して本人や家族と話しあったり、見学に来てもらって他の利用者への紹介等を行っている。入居後は家族に依頼して頻繁に面会に来てもらい、利用者の不安をなくすなど配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員がお互いに支えあい、家族の一員としての役割を持った生活をしている。日々の会話を重視し、ゆったりと話し合う時間を持つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や行動からそれぞれの意向を把握し、困難な場合には家族と相談してサービス提供に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の望む生活ができるよう家族や職員の意見、関わりある人々の思いなどを勘案しながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて定期的に見直している。利用者の状態に変化が生じた場合には、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により、美容院や通院の送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に診てもらっている。受診の際には家族と相談し、場合によっては職員が通院介助したり、往診をしてもらう事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について家族や関係者間で十分に話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを守り、利用者一人ひとりの誇りを損なわない対応をしている。また、記録や書類等も適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課はなく、利用者それぞれがゆったりと過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はそれぞれのユニットで調理し、昼・夕食は併設施設で作られ、盛り付けはホームの利用者と職員で行われている。食事はホーム横の畑で採れた季節の野菜を使った一品が並ぶ事もあり、楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望にあわせ、また不安や羞恥心にも配慮し、時間をかけて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力や好みを活かした役割を持ってもらい、洗濯物干しや畳むこと、野菜作りなどで力を発揮して楽しみながら行えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近くの神社などに出かけ、近所の方達と話をして過ごしている。広々とした敷地内での日向ぼっこなど日々戸外に出かけている。また誕生日には馴染みの喫茶店でコーヒーを喫されるなど楽しい外出もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。全職員で鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署員の指導による防災訓練を行っている。また地元消防団や隣接する関連施設への協力要請もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、健康管理に役立てている。献立は隣接施設の管理栄養士が作成し、栄養バランスや水分量等についても配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はガラス張りで広く開放感があり、ベンチが置かれ、外気を浴びるにはうってつけの場所となっている。ホールには季節の花や利用者の書、連獅子の折り紙が飾られ、スッキリと落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物が持ち込まれ、個性を出す工夫がされていた。また利用以前に住んでいた近辺の写真を壁に貼り、思い出と共に暮らしている方もいる。		